

JAPIA NEWS

2016
3・4

隔月刊
(通巻712号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

第15回技術展示商談会開催

中小企業革新技术展示コーナーを開設

特 集

新たな潮流 自動運転の実現に向けた課題

自動車産業革新技术セミナーを全国で開催

対UAE模倣品対策ミッション派遣報告

委員会部会だより

税制部会

自動車業界の一員として要望実現に向けて活動

支部活動レポート

中部支部

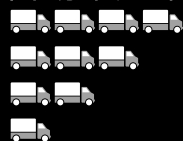
躍進するASEAN—自動車産業の成長

タイの自動車産業はASEANの中でも中心に位置づけられ、その産業規模は2012年に世界第9位を記録した。自動車産業はタイの対外輸出で第2位の産業であり、2013年にはタイのGDPの12%を占めた。生産能力は2015年に300万に達することが見込まれており、2013年からは54%の生産が国内への販売向けに行われている。

タイの自動車生産システムには数多くの部品業者が大きな役割を果たしている。世界の部品製造企業トップ100社のうち半数がタイで生産工場を稼働させている。自動車関連の一次サプライヤーが709社(OEM)拠点を置き、その半数以上が乗用車用部品を製造している。また、二次、三次サプライヤーは1700社にのぼる。タイ国内の自動車部品製造会社はピックアップトラックの組み立てに使用される約85%の部品を製造し、その70%は乗用車の組み立てに使用されている。

タイ国内の政策効果により、タイはエコカーと1トンピックアップトラックの生産拠点になり、2012年の主要輸出品目にはピックアップトラック(60%)、乗用車(34%)、ピックアップ乗用車(5%)が占めた。

世界第9位の自動車産業



タイをリードする展示会



Thailand Auto Parts & Accessories 2016 (TAPA)
4月7-10日 2016 | www.thailandautopartsfair.com



Intermach 2016
5月11-14日 2016 | www.intermachshow.com



SUBCON Thailand 2016
5月11-14日 2016 | www.subconthailand.com



NEPCON Thailand 2016
6月22-25日 2016 | www.nepconthailand.com



Assembly & Automation Technology 2016
6月22-25日 2016 | www.assemblytechexpo.com



Automotive Manufacturing 2016
6月22-25日 2016 | www.automanexpo.com



InterMold Thailand 2016
6月22-25日 2016 | www.intermoldthailand.com



CONNECT BUSINESSES

100米ドルの財政支援

タイ国内の展示会で海外バイヤーが3回のビジネスマッチングを成功させることにより支援受け取りが可能

connectbusinesses@tceb.or.th



Surface & Coatings 2016
6月22-25日 2016 | www.surfaceandcoatings.com



InterPlas Thailand 2016
7月7-10日 2016 | www.interplasthailand.com



BUS & TRUCK 2016
11月3-5日 2016 | www.ttfintl.com



The Grand METALEX 2016
11月23-26日 2016 | www.metalex.co.th



The 33rd Thailand International Motor Expo 2016
12月1-12日 2016 | www.motorexpo.co.th



AAITF Bangkok 2016
12月9-7日 2016 | www.aaitf.com/bangkok



Thailand International Truck Show 2016
3月2-4日 2017 | www.tit-show.com

詳細はお問い合わせください

ThailandCVB businessseventsthailand businessseventsthaiiland
www.businessseventsthaiiland.com

Thailand CONNECT TCEB

ANA



成田⇔武漢線 4月28日就航。

お急ぎならANA Cargoが、お応えします。

自動車産業の集積地の一つである武漢へ。もっと早く!タイムリーに!
ANA Cargoなら、クルマの部品などの急な発送にもスピーディーに
対応します。中国12都市をつなぎ、ますます広がるANA Cargoの
ネットワークを、お客様のビジネス戦略に合わせてお役立てください。

	便名	機材	曜日	DEP	ARR
成田発	NH937	B767-300	毎日	成田 19:10	→ 22:20 武漢
武漢発	NH938	B767-300	火水木金・日	武漢 07:30	→ 12:20 成田
	NH954	B767-300	月・・・・土・	武漢 09:15	→ 14:05 成田

●武漢→成田線は、4月29日より運航。●上記スケジュールは2016年4月28日からのスケジュールです。●本時刻表はすべて現地時間を使用しています。●スケジュールおよび機材については予告なく変更することがありますので、ご利用の際はあらかじめご確認ください。

ANA Cargo

東京 03-6735-1960 / 大阪 06-6450-9955 / 名古屋 052-586-9440
札幌 011-271-1534 / 福岡 092-720-3380 / 沖縄 098-859-7252

ANA CARGO

検索



モノづくりで社会に貢献する。



フタバ産業株式会社 岡崎市橋目町字御茶屋1番地

WHY?
NTK
O₂ SENSOR ■



信頼で選ぶなら

35
社

O₂センサは排気ガスのクリーン化に不可欠な部品。NTK O₂センサは世界35の自動車メーカーに純正採用され世界各国の環境の為に働いています。交換するなら世界で認められている性能と信頼性のNTK O₂センサ。

NTK **O₂ SENSOR** 酸素センサ



レーシングドライバー 佐藤琢磨

NGK **NTK** **日本特殊陶業**
スパークプラグ ニューセラミック

<http://www.ngkntk.co.jp/>

Koito



安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

イワタボルトの グローバルネットワーク

国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ・カナダ



認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
アメリカ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA, INC.	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA, INC.	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD.	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD.	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

歴史ある若い会社、 ジェイテクト。

歴史とは、受け継がれてきた技術や、経験が、どっしりとした土台をかたちづくっていくもの。若さとは、何ものをも顧みず挑戦する力や、困難から立ち上がり、立ち向かう勇気を生み出すもの。ジェイテクトは、光洋精工と豊田工機、合わせて150年分の歴史を受け継ぎ、10年前に誕生した若い会社だ。電動パワーステアリングシステム世界シェアNo.1のステアリングメーカーとして、駆動部品、ベアリング、工作機械を合わせもつメーカーとして、ジェイテクトにしかつukれないよりよい未来をみなさまにお届けする。それが、ジェイテクト10周年の心意気であり、世界中のみなさまへの恩返しであると思う。おかげさまで、10周年。ジェイテクト。

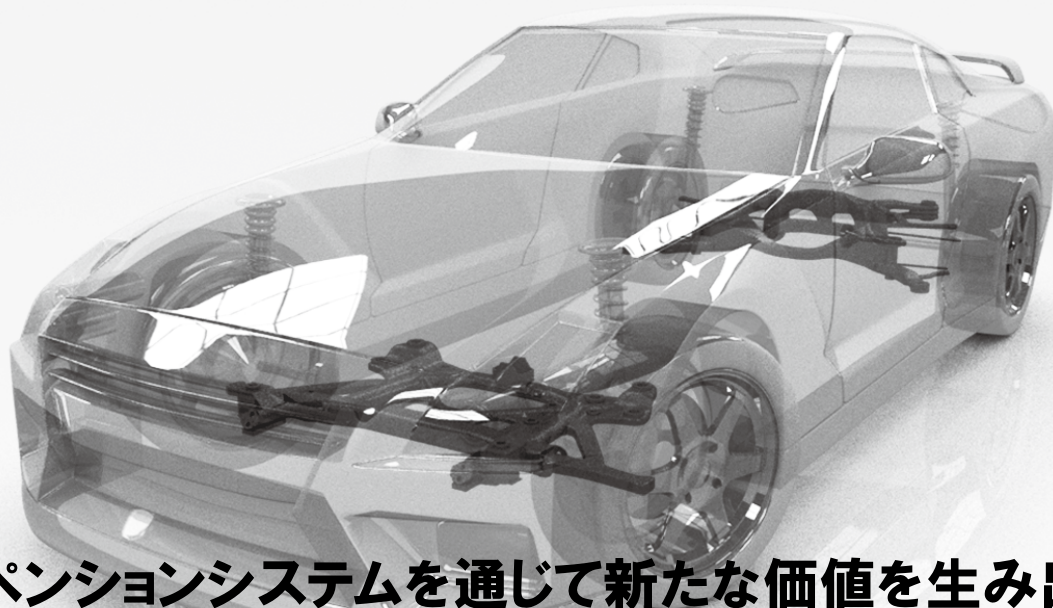
10th
Anniversary

No.1 & Only One JTEKT

自動車部品・ベアリング・工作機械の、ジェイテクト。

YOROZU

Passion for Innovation, Drive for Innovation



サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し、
“ヨロズブランドを世界に”

株式会社ヨロズ 〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60 TEL:045-543-6800 <http://www.yorozu-corp.co.jp/>

「企業は人」
人材育成
環境が変化しても
長し続ける
人材を育てる

人材育成制度

037 社

目標設定研修

075 回

評価者能力研修

540 回

昇格者選抜評価

143 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
アイシン化工株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
株式会社キャタラー
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーエアシステムズ
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生ブレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社 他 (50 音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

AKEBONO

BRAKE EXPERTS

www.akebono-brake.com

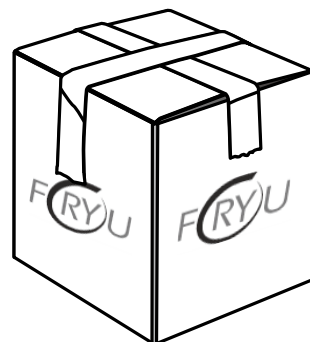
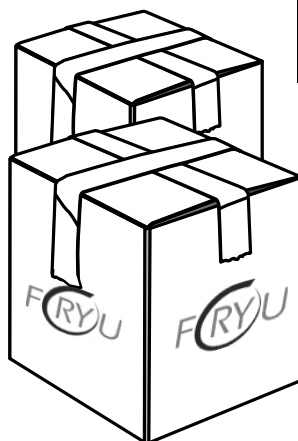


日本から中国へ、中国から日本へ、
航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい...

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス

日本  中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/



フォーユーエクスプレス

検索

どこでも 見られる 使える 電子版！

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック！ 新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、業界動向をリアルタイムでお伝えします。電子版でしか読めないコンテンツが満載。気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

これでビジネスの幅が
広がります！



海外でも
読める
紙面とは違う
見出しや
写真も



外出時や出張先、
海外でもご利用OK！

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。



過去の記事もすぐに探せる
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。



過去の記事
2013年
2012年
2011年
2010年

速報
機能



無料のお試し購読はこちらから  日刊自動車新聞 電子版  検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319
E-mail: hanbai@njd.jp

第15回技術展示商談会

2016/3/2 UDトラックス(株) (埼玉県上尾市)

第15回技術展示商談会を開催

日本自動車部品工業会 中小企業施策委員会は、3月2日（水）、埼玉県上尾市にあるUDトラックス(株)様のご協力のもと、同社の本社・上尾工場内の施設「Auditorium」で技術展示商談会を開催した。

この商談会は部工会所属の中小・中堅会員企業へのビジネス機会拡大を目的として2004年から開催しており、今回で15回目となる。

この日は、同社の調達部 澤本博之コンチネンタルマネージャー、調達部 山川洋ダイレクターをはじめとして232人のご来場をいただいた。

出展企業は部工会会員企業21社。「これまでお付き合いのなかったトラックメーカー様と接点ができて有意義だった」「設計・調達部門の方と直接意見交換ができた」「新事業の紹介ができた」といった声があがった。詳細は次号（5月・6月号）でご報告します。

【出展企業 21社】

(株)荒井製作所 石川ガasket(株) 江崎工業(株) エス・オー・シー(株) (株)オティックス
協栄プリント技研(株) サンライズ工業(株) 三輪精機(株) 三和ニードルベアリング(株) GMB(株) (株)槌屋
TPR(株) 中川特殊鋼(株) 長瀬産業(株) 日本濾過器(株) 光精工(株) ヒルタ工業(株) 松村銅機(株)
(株)ミクニ ミック電子工業(株) 山口電機工業(株)



来場者で賑わう商談会会場

中小企業革新的技術展示コーナー

中小企業の革新技术を一堂に披露する「中小企業革新技术展示コーナー」が自動車部品会館3階に誕生した。地域の中核企業育成を目的に、日本自動車部品工業会では経済産業省から「平成27年度戦略産業支援のための基盤整備事業（戦略分野コーディネータ事業）」

を受託しており、優れた技術や製品を自動車産業関係者に紹介するため地域の中核企業候補の革新技术を紹介した。戦略分野コーディネータとして当会の技術担当顧問2名がヒアリング訪問を実施した企業を含めて12社が出展した。展示期間は3月17日まで。

【中小企業革新技术展示コーナー出展参加企業】

1

株式会社 ポーライト

<http://www.porite.co.jp/>

株式会社 青木科学研究所

<http://www.lubrolene.co.jp/>
(共同出展)



所在地 埼玉／東京
技術分野 金属加工（焼結合金及び潤滑油）
アピールポイント
環境対応、高機能化

2

株式会社 アタゴ製作所

<http://www.atago-mfg.co.jp/>



所在地 群馬
技術分野 金属加工（アッセンブリロウ付け加工）
アピールポイント
環境対応、省スペース化

3

株式会社 熊防メタル

<http://www.kb-m.co.jp/>



所在地 熊本
技術分野 表面処理（硬質アルマイト処理）
アピールポイント
軽量化、多品種少量生産

4

株式会社 戸畑製作所

<http://www.tobata-s.com/>



所在地 福岡
技術分野 耐熱・難燃性マグネシウム合金製品
アピールポイント
軽量化、多品種少量生産、各種マグネシウム合金の試作を少量から迅速に対応

5

渗透工業株式会社

http://www.shinto-lance.co.jp/menu/menu_jl.htm



所在地 長崎
技術分野 表面処理
アピールポイント
高寿命化

6

松村鋼機株式会社

<http://matumura-kohki.co.jp/>



所在地 神奈川
技術分野 金属加工（平線の曲げ加工、波型圧縮ばね）
アピールポイント
合理化、軽量化、省スペース

7

ヤマセ電気株式会社

<http://www.yamase-net.co.jp/>



所在地 宮城
技術分野 金属と樹脂の接合
アピールポイント
軽量化、放熱、気密、コスト低減

8

RP東プラ株式会社

<http://www.rptopla.co.jp/>



所在地 大阪
技術分野 3次元屈曲パイプ射出成形品
アピールポイント
コスト削減、軽量化（金属代替、フランジ構造、インサート部品、枝管等これらを一体化し成形することにより、トータルコストの削減と軽量化を実現することが可能）

9

株式会社 秀峰

<http://tsugilab.com/shuhoutest/index.html>



所在地 福井
技術分野 表面処理
アピールポイント
多品種少量生産、弊社独自の印刷技法により、高付加価値のある局面加飾が可能。（グラデーション印刷、高精度な位置決め精度、肌触り（凹凸）表現etc）

10

千住金属工業株式会社

<http://www.senju-m.co.jp/>



所在地 東京
技術分野 金属加工（はんだ材料、すべり軸受け）
アピールポイント
軽量化、環境対応、海外生産対応（中国・EU・USA・ASEAN他）

11

株式会社 リプス・ワークス

<http://www.lps-works.com/>



所在地 東京
技術分野 表面処理
アピールポイント
多品種少量生産

12

加美電子工業株式会社

<http://www.kamidenshi.co.jp/>



所在地 宮城
技術分野 表面処理
アピールポイント
環境対応、価格低減（世界初希釈溶剤を大幅に削減可能（環境負荷低減、価格低減）なCO2塗装及び塗装装置）

特集

新たな潮流 自動運転の実現に向けた課題

2020目標

自動運転技術の実用化に向けて、関連産業の開発が急ピッチで進んでいる。国内においては政府定義による「レベル2」（加減速・操舵のうち複数を車両が担う）と、「レベル3」（加減速・操舵のすべてを車両が担う）の中間ともいえる領域が当面のターゲットだ。自動車の運転はあくまで運転者に帰属する現行の解釈を踏襲し、その中で最大の限での『自動化』を狙っている。海外のIT産業を中心に自動運転を新たなビジネスチャンスとみて新規参入が進む中、自動車関連産業にとってはあくまでも安全・安心を基本に堅実な開発を行っている。異なるのは新規参入組のビジネスに対するスピード感と、日本のものづくりで培った自動車関連産業としての堅実なつくりこみだ。自動運転をきっかけにいわばスピードを重視する異文化の企業が参入することになる。異なる文化にいかに対応して日本のものづくりをきわめていくか、新たな競争

が生まれている。とはいえ、異なる文化では安全に対する意識の違いもある。製品化に至るまでの過程での常識が異なる文化とすり合わせ、完全な製品にするかも重要になってくるだろう。

まずは準自動パイロットから

日本が進める自動運転は、レベル2とレベル3の中間ともいえる「準自動パイロット」が当面の目標となる。レベル2をきわめて高度化しながら運転責任はあくまでドライバーに帰属するという現行制度になじむ方式だ。政府では2020年にも実用化した意向で、実施的には開発がスタートしたともいえる状況となっている。具体的には自動駐車や衝突被害軽減ブレーキ、レーンキープアシスト（車線逸脱防止支援システム）など既存の先進技術を組み合わせたシステムになる。それぞれに自動車の目となるセンサーや制御機構、統合制御システムなどが必要といえる。サプライヤーにとっては個別のシステムの開発に磨きをかける



と同時に、複数の機能を集約し合理化することで価格競争力を維持することなどが求められるわけだ。

新たな技術の導入へ

課題となるのが複数のまたがる自動運転の機能を集約する統合制御のソフト開発だろう。新規参入となるIT企業にとっても最も得意領域とする分野だ。ハード系部品は既存産業にまかせ、自動運転機能の中心分野を押さえる格好となる。こうした状況に国内サプライヤーも危惧を抱いており、家電メーカーから電気関連のエンジニアの中途採用を図るなど対応に乗り出しているメーカーもある。様々な領域を網羅する自動運転の分野において、自社の技術に特化しより深掘りする動きとなる。実質的には

統合制御を含めた自動車の電動化への対応ともいえる。自社で技術を網羅しながら、次のステップへのぞむわけだ。

高まるIT領域

レベル3、そしてレベル4へと続く中で、高度な地図や通信システムなども必要性もさらに高まってくる。地図のデータ化をはじめ、車両とつなぐ通信技術など新たな領域も増加する。結果的にはIT領域ともいえる分野で、こうした点からも電子、電機、IT技術の吸収が自動車産業関連のサプライヤーにとっては急務となりそうだ。自動車関連部品の知能化ともいえる領域で、市場での競争力を保つうえでは、こうした技術革新にも対応していく必要がるといえる。

「自動運転実用化と未来のクルマ社会」 自動車産業シンポジウムを開催

日刊自動車新聞社は2月5日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで「自動運転実用化と未来のクルマ社会」をテーマに第3回自動車産業シンポジウムを開催した。東京オリンピックが開催される2020年までに国内完成車メーカーが高速道路での自動運転技術の実用化を目指しており、シンポジウムでは行政の取り組みや完成車メーカーの開発動向を明らかにした。パネルディスカッションでは完成車メーカー3社の開発者が今後の課題や展望について語り合った。会場には自動車産業に携わる企業の経営者や調査機関の研究者など400人を超える聴講者が来場した。

2020年をマイルストーンに

当日は日本自動車工業会の池史彦会長が自動運転について「2020年をひとつのマイルストーンとして、東京オリンピック/パラリンピックの場で日本の最先端の技術をアピールできるよう頑張っているところだ。（シンポジウムを機会に）自動運転に対する考え方を深め、共有化して、我々としても取り組みを進めていきたい」と挨拶した。

技術の積み重ねが重要

会場で経済産業省製造産業局自動車課の吉田健一郎電池・次世代技術ITS推進室長が「経済産業省における自動走行関連の取り組みについて」講演し、産官学の連携の重要性を訴えるとともに関連産業創出に期待を寄せた。国土交通省自動車局の久保田秀暢国際業務室長は「国土交通省における自動走行関連の取り組みについて」と題して講演し、安全基準でのサポートを強調す



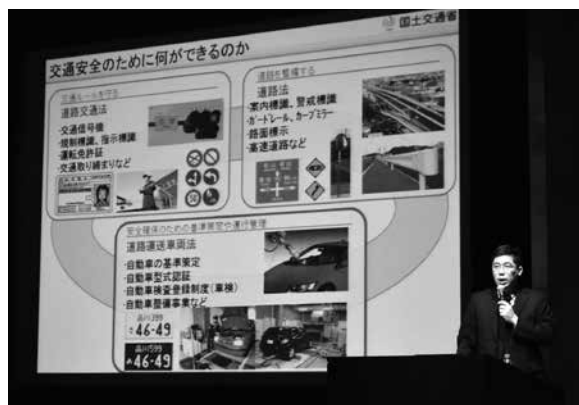


るとともに、既存システムを含めた技術の積み重ねの重要性を訴えた。

訴えられた。また、自動運転社会の実現に向け、競争領域と協調領域両面の重要性があるとした。

実現に向けた競争領域と協調領域の両立

トヨタ自動車と日産自動車、本田技術研究所の開発者が行ったパネルディスカッションでは、各社の取り組みや自動運転に対する考え方を説明すると同時に、新技術の到来に向けて社会的コンセンサスの重要性や、実際の交通社会のなかで歩行者らとのコミュニケーション能力の必要性などが



世界同時株安の引き金となった 中国の株価下落と人民元安

2016年に入り、中国株の急落をきっかけに世界同時株安が起り、原油価格の下落や新興国通貨の下落と相まって、市場の混乱が深まった。この震源となった中国では、15年夏以降、3回の株価急落が発生した（図表1）。まず15年6月には、過去1年間に株価が2.5倍に急騰し、過熱感が強まったことを背景に、国内個人投資家の売りが殺到したことで株価が急落したが、その影響は中国国内にとどまった。15年8月には、経済の減速懸念に加え、人民元安による資金流出への不安により株価下落に拍車がかかり、今度は海外においても中国経済の下ぶれリスクが強く意識され、世界同時株安につながった。3回目となる16年の年明けからの混乱も、15年8月と同様の構図で世界に影響が広がった。

2011年以降の中国経済は、高成長の下で投資資金が流入し、人民元は対ドルレートで元高の一途を辿ってきたが、14年に入ると、元安基調に転じた（図表2）。このきっかけは、過度な元高による輸出産業の競争力低下に配慮し、人民銀行が元安誘導を行ったことに

あった。しかし、経済成長の鈍化を懸念材料に市場では資金流出圧力が加わり、当局の想定以上に元安が進むこととなった。

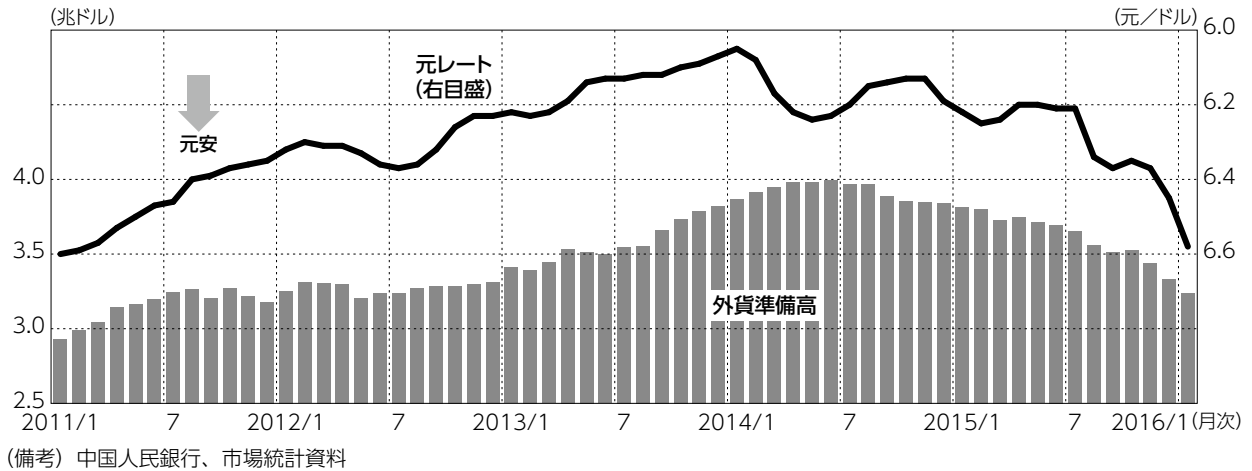
これに加えて、15年11月にIMFのSDR（特別引き出し権）採用の決定を控え、為替制度を見直したことが、一段の元安を招く一因となった。SDRは準備資産を補完する資産として、これまで米ドル、ユーロ、円、英ポンドで構成されてきたが、人民元の採用に向けて、中国は通貨、金融面での改革を進めることが求められた。15年8月に人民銀行は市場実勢に近づけるように、人民元の対ドルレートを切り下げたが、これが株安と一層の元安を招いた。また、同12月には、ドルだけでなく13通貨のバスケットに対する安定を目指す方針に変更したが、結果として独歩高となっているドルに対して元安傾向が強まった。

人民銀行は急激な元安を阻止し、金融市場の混乱を沈静化させるため、ドル売り元買い介入を行わざるを得なくなった。しかし、介入により外貨準備が14年半ばの4兆ドルから15年末には3.3兆ドルへと急減したことが、

（図表1）上海総合株価の推移



(図表2) 人民元の対ドルレートと外貨準備高



逆に懸念を呼んだほか、ドル売り元買い介入は实体经济にも副作用をもたらしている。まず、貿易ウエイトを考慮した通貨バスケットでみた人民元の「実効レート」は14年半ばに比べて依然約1割の元高となっているが、元買い介入を強いられたことで、元安を望んでいた輸出企業にとって競争力の回復が難しくなった。次に、金融政策では利下げなどにより市中へのマネー供給を通じた緩和を行っているにもかかわらず、ドル売り元買い介入はマネー（人民元）を吸い上げ、金融引き締め効果を生み出してしまふ。中国に限らず、通貨防衛策は、短期的な行き過ぎを是正する効果がある一方で、国内景気を下押しし、新たな通貨安圧力をもたらすリスクがある。

中国の10～12月期実質GDP成長率は、前年比6.8%と前期（同6.9%）からやや減速した。製造業・鉱業が調整を続ける一方、底堅い消費、サービス産業を下支えに、ハードランディングを回避し、成長は緩やかに鈍化するのがメイン・シナリオとなっている。しかしながら、過剰投資・過剰生産能力、高い地方政府債務や企業債務など構造的な問題を解消する道筋は必ずしも明らかにされておらず、株安・通貨安の火ダネは依然残っている。

15年の2回の株価急落においては、中国政府は大口株主の売却規制、大手証券会社など

「国家隊」による株の買い支え策のほか、利下げや財政出動の強化（インフラ投資の拡大、自動車購入減税）などの経済対策も打ち出し、次第に市場は落ち着きを取り戻した。しかし、経済そのものへの懸念が残り、金融市場の改革が求められる中、株式市場に直接介入する形で混乱を収めることは難しくなっている。

15年12月の中央経済工作会议では6.5%以上の安定成長を維持するために、財政出動を一段と強化する方針が示され、財政赤字を15年（対GDP比3.5%程度）から更に拡大することを容認する見通し。具体的な政策の発表が待たれるが、本格的な財政支出は3月の全人代（全国人民代表大会）以降になる。それまでの間は、経済の先行き不透明感や金融市場の不安定な動きが続く可能性があると思われる。

参考文献：

- 日本政策投資銀行(2016) *DBJ Monthly Overview* February 2016
- Robert A. Mundell (1968) "International Economics" *Macmillan*
- 中国人民銀行「The PBC Spokesman Answered More Press Questions on the RMB Exchange Rate」August 11, 2015 (<http://www.pbc.gov.cn/english/130721/2941618/index.html>)
- 中国外為取引センター「The Launch of RMB Index Helps to Guide Public View of RMB Exchange Rate」December 11, 2015 (<http://www.chinamoney.com.cn/fe/Info/15851090>)

自動車産業革新技术セミナーを 全国で開催 中小企業の技術革新力を紹介

全国の中小企業が持つ革新技术を紹介する「自動車産業革新技术セミナー」が、大分県を皮切りに3月17日の宮城県まで全国10ヵ所で開催された。経済産業省と日本自動車部品工業会との共催で、燃料電池自動車や自動運転など環境や安全、通信技術を取り込んだ技術革新が進む自動車業界の展望を紹介し、自社技術を活かす中小企業の新たな参入を促進するのが狙いだ。会場では自動車産業の最新技術動向の説明と共に、中小企業の研究開発事例を紹介し、将来の企業戦略に役立ててもらうことになる。

自動車産業革新技术セミナーは2月17日に開催した大分を皮切りに、山梨、栃木、埼玉、広島、山形、岩手、福岡、群馬、宮城と全国10都市で開催。自動車産業の最新技術動向と中小企業の研究開発事例を紹介するとともに、各県の地元で立地する技術センターの支援状況の説明などを行った。このうち、大分県では同

県自動車関連企業会とも共催し、地元の企業に講演した。山梨ではやまなし産業支援機構が共催した。

今後進むべき先進自動車については、燃料電池自動車や電気自動車、ハイブリッド車などパワートレйнの変革が進むと共に、安全技術の革新も加速している。話題となっている自動運転も将来的に進むべき方向性となるが、自動ブレーキや車線追従型の走行システムなど周辺技術の採用はすでに進んでいる。全ての領域で今までにない技術が求められているともいえ、電子デバイスシステムの拡充により、総合的に制御するシステムの開発も重要になっている。さらに、車両の高度化に伴い、自動車の五感となるセンサーシステムも大幅に増加している。それだけに、新規参入領域、ビジネスチャンスも拡大しているといえ、今回のセミナーが日本のものづくり力を引き上げるうえで大きく役立つことになりそうだ。



地元の技術者や研究者、経営者が参加したやまなし山梨のセミナー

山 梨



自動車技術の現状について説明した

大 分



各企業が目指すべき戦略を見つけ出す機会とした大分のセミナー



先進技術の動向を講演



とちぎ産業創造プラザで開催した栃木のセミナー

栃 木



多くの地元企業関係者が参加した

対UAE模倣品対策ミッション派遣報告

一般社団法人日本自動車部品工業会 国際部

佐々木 光

当工業会知的財産権部会では、1月下旬～2月上旬にかけて、UAEのドバイ、シャルジャ両首長国に、佐藤廣幸知的財産権部会長（アイシン精機株）を団長とする模倣品対策ミッションを派遣した。2014年に実施した会員アンケート調査でも、中国以外では、UAEでの模倣品被害件数が最も多いという結果が出ていることから、両国の警察、税関、経済開発庁等関係当局等を訪問し、参加各社によるプレゼンテーションや模倣品差止めに必要な情報の提供をおこない、日本の自動車部品業界として模倣品の流通阻止を訴えるのが目的。なお、JAPIAとしてUAEで活動するのは2007年のオート・メカニカ（ドバイ）出展以来10年振りのこと。

1. ミッション参加企業（順不同）

日本からは、アイシン精機株、曙ブレーキ工業株、KYB株、株ジェイテクト、武蔵オイルシール工業株の5社が、現地ドバイからは、Koyo Middle Eastが参加した。なお、在ドバイ日本国総領事館および日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所にはほぼ全行程を同行いただいた。

2. 派遣期間

2016年1月29日（金）～同2月5日（金）

3. 訪問・視察先

- 1) ドバイ：警察、経済開発庁、UAE知的財産協会、知財保護任意団体、法律事務所、民間調査会社、ジェトロ、自動車部品販売店舗街、模倣品取締り現場（於ドバイ郊外倉庫）
- 2) シャルジャ：税関、経済開発庁、自動車部品

販売店舗街、中古自動車・同部品販売店舗街

*なお、各機関への訪問アポイントメントはジェトロ・ドバイ事務所をお願いして確保した。また、市場視察は、法律事務所にガイドをお願いした。

4. 活動報告

1) 全体を通して

出張期間中、ドバイ、シャルジャ両首長国訪問予定公的機関7カ所のうち、5カ所を訪問したが（2カ所キャンセル）、いずれの機関にも訪問を歓迎していただいた。なかでも、従来会員企業がアプローチし難かったシャルジャの経済開発庁（SEDD）では、同庁長官が自ら迎賓室でミッション一行を出迎える一方で、同庁玄関ホールでメンバー企業の真贋製品の展示会を開催するなど、異例ともいえる厚遇を受けた。また、各機関ともミッション側各社プレゼンにも好意的な反応を示していただき、従来認識していなかったブランドも今回の来訪で明らかになった、との先方コメントもあった。日本の自動車部品業界として模倣品は許さないという姿勢と各社の製品およびブランドに対する先方の理解が深まったと同時に、関係当局の摘発への協力姿勢を引き出すことができたことは間違いないところ。

2) 公的機関への訪問について

各機関ともに取締りへの相当な意欲が感じられた。特に、シャルジャ税関、同経済開発庁（SEDD）からは、メンバー企業側に実務的なアドバイスをいただくなど、ドバイ警察、同経済開発庁（DED）と比較して熱心な対応が印象的だった。ただ、各機関から、真贋判断のための材料、知識が不足しており、対処できないのが現状、とのコメントが



ドバイ警察との面談風景

あり、現地での真贋判定セミナー、ワーク・ショップ等実施の強い要請があった。日本側の今後の協力体制を検討すべきところ。

3) 販売市場（自動車部品店舗街）および摘発現場視察について

市場視察については、ドバイ2カ所、シャルジャ2カ所で実施したが、いずれの店舗でも明確に商標違反を確認できるものはあまり見受けられなかった。数多くの違法商品が確認された2007年視察時とは大きな相違。ただし、同行した法律事務所によれば、店の裏側には模倣品をストックしてある店舗は多い、とのこと。狡猾かつアンダーグラウンドになりつつあるのではないかと推測される。とはいっても実際にDEDを動かし、摘発を要請できる同事務所の力量は相当なもの。実務的にはこうした法律事務所との連携が大きな効果を発揮することは間違いない。

4) 各機関との連携について

ドバイについては、IIPPFのミッションやジェットロ・ドバイ知財部が現地人脈を構築していたことが今回の訪問成功に繋がっている。従来日本勢とあまりコンタクトがなかったシャルジャ当局やアルシャーリ法律事務所のような有力法律事務所とのパイプも今回強化された。JAPIAとしてもこうした両国・地域の官民との連携は維持すべき。現地でも2月下旬、ジェットロ・ドバイが中心となっ



シャルジャ経済開発庁長官から佐藤団長に記念盾贈呈

てIPGが立ち上がったが、こうした気運が高まった時期を逃さずJAPIAとしても可能な協力を検討していくべきだろう。

5) 参加者アンケート結果について

参加者満足度（4段階）では、5社中4社が最上位を、1社が次点を選択している。出張期間も長くスケジュールがタイト過ぎた、ワーキング・グループでももう少し準備を重ねるべきだった、との批判もいただいた一方、組織で動いたことにより個社では面談できない当局関係者等に直接摘発要請ができた、UAE側の模倣品追放に関する対応、努力も理解できた、実際に販売現場を視察することで流通実態を把握でき、今後の戦略立案の参考になった、といった評価もいただいた。また、今回のみで終わるのではなくJAPIAとして中期的に対UAE戦略を立てるべき、時間を置かず先方から要請のある真贋判定トレーニング・セミナーには対応していくべき、との提案もいただいた。今後、知的財産権部会で検討していくことになる。

以上



ドバイ経済開発庁による模倣品摘発現場視察

自動車関係諸税の 簡素化・負担軽減に向け 自動車業界の一員として 要望実現に向けて活動

Q

部会の活動内容を簡単に教えてください。

A

税制部会は、総務委員会の部会の一つとして、自動車・自動車部品業界に関連する税制改正要望を取りまとめて、関係団体と連携してその実現に向け、政府等へ業界の現状、要望活動行っています。

また、会員企業が利用可能な国内の各種税制度に関する説明会やJAPIAからのお知らせ（Eメール）による情報提供及び海外における税制度や運用の動向等に関する講演会を開催しています。

Q

部会の具体的な活動と注力していることは？

A

具体的な活動として、税制改正要望の実現については、2つの視点で取組みを行なっています。一つ目は、自動車業界全体の視点であり、永年の課題と

なっている自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に関する要望で、税制改正要望においても重点項目と位置づけ、自動車関係業界で組織している「自動車税制改革フォーラム」に参加をして、関係団体と連携し要望活動を行っています。

特に、平成28年度活動（平成29年度税制改正要望のとりまとめ）においては、平成29年4月に予定されている消費税引上げ時点における自動車取得税の廃止や自動車重量税の当分の間税率の廃止等、自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に向けた重要な活動になることが予想されています。このため、自動車の国内販売が厳しい状況において、自動車ユーザーの負担が軽減され、自動車を購入しやすい環境が整うよう、部工会も自動車業界の一員として要望実現に向けて活動を進めていきます。



税制部会
部会長 三矢 誠
(アイシン精機株式会社 取締役副社長)

Q

**2点目の税制改正の要望とはなん
でしょうか。**

A

企業の事業活動の視点として、会員企業の競争力強化等に役立つような設備・研究開発税制の取りまとめ、要望を行なうことです。特に会員企業の過半を占める中小会員企業に関連する税制については、重点要望項目として強く要望を行っています。

これらの税制改正要望の実現においては、業界団体としての要望活動だけではな

く、会員企業にも要望内容をご理解、ご協力をお願いします。

Q

税制に関する情報提供もさかんです。

A

税制に関する情報提供活動については、企業の競争力強化に役立つような設備・研究開発投資税制等の情報提供による利用促進や海外、特に新興国における税務問題や移転価格税制等に関する講演会を開催し、情報提供を随時行っています。



2008年11月 緊急総決起大会（日本自動車会議所提供）



2012年10月 共同記者会見（日本自動車会議所提供）

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告【12/16～2/15】

- 12月18日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 各委員会活動
状況報告他 名古屋マリオットアソシアホテル
- 12月21日 定例記者会見 平成27年度中間期の経営動向調査
発表 くるまプラザ
- 1月21日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 各委員会活動
状況報告他 東京プリンスホテル
- 1月25日 政策委員会、自動車総連との懇談会 平成28年度
事業計画案、予算案の検討 WTCコンファレンス
センター

●行事予定【3/16～5/15】

- 3月17日 正副会長等打合せ会、理事会 平成28年度事業計
画案および予算案の審議 経団連会館
- 4月27日 正副会長等打合せ会、理事会 平成27年度事業報
告および決算報告等 八芳園

業務部

●業務報告【12/16～2/15】

- 12月16日 総務委員会 ・上場企82社の2015年度上半期の自
動車部品工業の経営動向について検討を行い、12
月21日の記者会見でその結果を発表した。 プリ
ンスさくらタワー東京
- 2月1日 自動車産業適正取引ガイドライン・下請法 セミ
ナー ・「自動車産業適正取引ガイドライン・下請
法」に関するセミナーを群馬県太田で開催した。
テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについ
て 講師：経済産業省 製造産業局 自動車課 課長
補佐 太田保光様 テーマ：下請法の留意点につい
て 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士 岡田英夫
様 太田商工会議所
- 2月8日 人財・労務部会 講演会 2016年春季労使交渉へ
の取り組みに関する講演会を開催した。 テーマ：
2016年春季労使交渉への取り組みについて 講
師：一般社団法人日本経済団体連合会 労働政策本
部 主幹 坂下多身様 部品会館
- 2月8日 適正取引ガイドラインセミナー ・「自動車産業適
正取引ガイドライン・下請法」に関するセミナー
を福岡で開催した。 テーマ：自動車産業適正取
引ガイドラインについて 講師：経済産業省 製造
産業局 自動車課 課長補佐 太田保光様 テーマ：
下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事
務所 弁護士 岡田英夫様 福岡中小企業振興セン
ター
- 2月10日 適正取引ガイドラインセミナー ・「自動車産業適
正取引ガイドライン・下請法」に関するセミナー
を東京で開催した。 テーマ：自動車産業適正取
引ガイドラインについて 講師：経済産業省 製造
産業局 自動車課 流通係長 風間香苗様 テーマ：
下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事
務所 弁護士 岡田英夫様 損保会館
- 2月15日 調達・生産部会、素形材団体懇談会 ・自動車産
業取引適正化への対応状況について検討を行っ
た。 ・素形材団体と意見交換を行った。 部品
会館

●行事予定【3/16～5/15】

- 3月17日 中小企業施策委員会 経団連会館

国際部

●業務報告【12/16～2/15】

- 1月22日 日アセアン経済産業協力拠出金・説明会 経済産
業省によるアセアン現地での人材育成事業の説明
部品会館
- 1月29日～2月5日
対UAE模倣品対策ミッション UAEのドバイ首
長国、シャルジャ首長国内の政府機関向け模倣品
の取締まり促進活動の実施 UAE・ドバイ首長国、
シャルジャ首長国
- 2月9日 原産地規則懇談会 経済産業省と産業界の原産地
規則に関する意見交換会 日機輪

関東支部

●業務報告【12/16～2/15】

- 1月21日 新年懇親会 東京プリンスホテル
- 2月8日 2016年春季労使交渉への取り組みに関する講演会
(本部と共催)「2016年版経営労働政策特別委員
会報告について」(一社)日本経済団体連合会 労
働政策本部 主幹 坂下多身様 部品会館

●行事予定【3/16～5/15】

- 3月23日 関東支部運営委員会 平成27年度事業報告(仮)
平成28年度事業計画(案) 八芳園
- 3月29日 関東支部経営研究会幹事会 平成27年度事業報告
平成28年度事業計画 部品会館

中部支部

●業務報告【12/16～2/15】

- 12月18日 ISO/TS16949：2009 規格解説セミナー 刈谷市産
業振興センター
- 12月21～22日
AIAG, コアツール実践2日間セミナー 刈谷市
産業振興センター
- 1月21～22日
ISO/TS16949：2009 内部監査員2日間セミナー
刈谷市産業振興センター
- 1月27日 講演会(環境部会)「ISO14001改訂ポイントと環境
マネジメント分野の標準化教室」中部大学 准教
授 伊藤 佳世氏 名古屋栄ビル
- 1月29日 優良企業工場見学会(中小企業部会) 本田技研工
業(株)鈴鹿製作所 三重県鈴鹿市
- 2月4日 支部懇談会・懇親会 賀詞交歓会 名古屋市内
- 2月12日 優良施設見学会(環境部会) 味の素(株)東海事業所
三重県四日市市

●行事予定【3/16～5/15】

- 3月25日 正副支部長打合せ会 平成28年度支部事業計
画 ・支部役員人事 名古屋市内
- 4月20日 第1回運営委員会 支部事業報告・計画および決
算・予算(案) 名古屋市内

関西支部

●業務報告【12/16～2/15】

- 1月8日 平成28年度十団体共催新年賀詞交歓会 ホテル阪
神
- 1月27日 技術分科会 異業種見学会 防衛装備庁 陸上装備
研究所
- 2月3日 生産分科会 委員会・工場見学会・改善事例プレ
ゼンテーション「IoTシステム(エクスプレス)
の説明」「エクスディ物流での改善事例紹介」(株)
エクスディ 上野事業所

2月4日～5日

品質分科会 ISO/TS16949：2009 内部監査員2日
間セミナー エル・おおさか

2月5日 補修部品分科会 工場見学会 大阪ガス(株) 泉北製
造所/ガス科学館

●行事予定 (3/16～5/15)

5月13日 第1回正副支部長会・関西支部 年次会・情報交換
会 講演会・懇親会 京大和

技術関係委員会等の開催状況 (12/16～2/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
1月20日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動報告、並びに平成28年度の活動計画について
	ITS部会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動報告、並びに平成28年度の活動計画について、講演 2) 内閣府SIP自動走行システムについて 3) 経済産業省自動車課のITSに係る施策について
2月5日	平成27年度 第4回総合技術委員会	自動車部品会館	1) 環境問題への対応について 2) 電子情報化への対応について 3) 基準・認証制度への対応について 4) ITS部会について 5) その他 各委員の情報交換

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
12月16日	基準認証部会	自動車部品会館	1) インドWG 活動状況 2) 中国WG 活動状況 3) ASEAN-WG活動状況 4) WP29会議報告 5) 各国情報 6) JASIC情報
1月14日	基準認証部会中国WG	自動車部品会館	1) 中国CCC認証対応の最新情報共有
2月10日	QRTV-WG	自動車部品会館	1) JASIC QRTV採用WGの報告について 2) 今後の活動計画について

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
12月17日	DE促進部会OEM CAD-WG	安保ホール (名古屋)	1) 3ヶ年活動の振り返りについて 2) 次年度活動テーマの検討について 3) 成果物のレビューについて
12月18日	DE促進部会幹事会 DE促進部会	広島オフィス センター	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
1月13日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) 最近の課題について 2) 前回幹事会課題について
1月22日	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
2月5日	IT対応委員会合同幹事会	自動車部品会館	1) 自工会関連について 2) 部工会関連について

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
12月17日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会報告 2) 部工会・国際イベント準備委員会報告 3) GASG会議報告 4) IMDS Chemistry Manager報告 5) 物質調査システム分科会報告
	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 環境法規制対応ガイダンス、及び補足資料集の改訂について 2) 環境法規一覧の改訂について 3) グローバルでの廃棄物、水資源の把握と削減活動について 4) 国内外の新法規規制・動向への対応について

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
12月18日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会（11/5）結果報告 2) J-IMDS報告 3) GASG会議報告 4) 欧州出張報告 5) 部工会国際イベント準備委員会からの報告
	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 運営組織について 2) ガイダンスグループの活動報告 3) 法規調査グループの活動報告 4) GLAPS会議報告 5) 2016年度予算と説明会について
12月24日	LCA使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1) LCA日本フォーラム表彰の応募結果について 2) 担当製品の計算定義一覧、進捗と計画の確認 3) 使用段階の環境負荷削減貢献の考え方（案）
1月15日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) IMDS動向紹介 2) 2015-2016年度JAMAシート改正見通し説明 3) GADSL動向紹介 4) 物質調査ツールあり方協議のその後の状況紹介
	物質調査システム分科会全体会	自動車部品会館	1) IMDS動向紹介 2) 2015-2016年度JAMAシート改正見通し説明 3) GADSL動向紹介
1月22日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 自工会・製品化学物質管理部会報告 2) 物質調査システム分科会報告 3) 部工会・総合技術委員会報告内容
1月26日	環境対応委員会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会及び理事会での報告 2) 各部会・分科会の今年度活動状況報告並びに報告結果（事務局） 3) 事務局情報
	国際イベント準備委員会	自動車部品会館	1) 海外からの出席者の確定 2) パネルディスカッションテーマ 3) パンフレット印刷準備 4) その他相談事項
1月27日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 自工会・製品化学物質管理部会報告 2) 物質調査システム分科会報告 3) 部工会・総合技術委員会報告内容
1月29日	省エネ工場見学会	東京ガス 根岸工場	1) LNG冷熱実験・工場見学 2) 質疑応答
2月3日	JAMAシート材料リスト見直し検討WG	CIVI大阪センター	1) 本WG設立の関係事項説明 2) 本WGの進め方の協議
	省エネTF	自動車部品会館	1) 各成果物の発行前の確認 2) 省エネ勉強会（3月14日）の準備
2月4日	LCA使用段階負荷算出WG	自動車部品会館	1) 当製品の計算定義、進捗確認 2) エアコンとトランスミッションの算出取り組み 3) 来年度の活動項目
2月15日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) ガイダンスGの活動報告及び2016年度計画 2) 法規調査Gの活動報告及び2016年度計画 3) 説明会の内容と計画について

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
12月18日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) 来期活動計画玉出し 2) シート技術研究発表会テーマ案出し
12月21日	車輪技術部会及び タイヤ・リム合同会議	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
12月22日	シートベルト分科会	自動車部品会館	1) TRIASに使う動的マネキンの件 2) R16の法規変更の現状 3) 台湾VSCCのCOP監査情報
12月25日	エアバッグ分科会 CE-WG	自動車部品会館	1) 欧州CEラベル記載内容について今後の対応方法についての意見交換
1月12日	警音器部会	自動車部品会館	1) ロシアからのフォーラム提案に対する対応方針・コメント検討について
1月18日	エアバッグCE分科会	ホテルクラウン パレス浜松	1) 欧州CEラベル記載内容についてBAMメンバーとの打合せ

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
1月20日	レストレイント部会 NCAP-WG	自動車部品会館	1) UN-NCAPの変更点についての情報交換
1月21日	シートベルト分科会 幹事会	安保ホール (名古屋)	1) The manikin's center of gravityについて 2) 2/2に行われる後席へのManikin搭載方法について
	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2017年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
1月22日	シート部会	自動車部品会館	1) 平成28年度部会活動計画案について 2) シート技術研究発表会実施報告
1月25日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) ラジエータ放熱性試験法改正について (JIS D 1614) 2) オイルクーラ放熱試験法改正について (JASO E404,405)
2月3日	レストレイント部会 NCAP-WG	自動車部品会館	1) UN-NCAPコメント作成
	オイルフィルタ JIS小委員会	自動車部品会館	1) JIS D1611-3原案 (本文、解説) の審議
2月4日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 第68回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について 3) JASO D603アルミ電線規格、最終案修正審議について
	警音器部会	自動車部品会館	1) 国交省との事前協議について 2) GRBへのコメントについて
2月9日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 2015年中国CCC工場監査費用集約案について 2) CCC最新情報 3) 韓国認証、インド認証情報について
2月12日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) 高山リードのプレゼン及びデモ 2) 来期活動計画玉出し

●行事予定 (3/16～5/15)

月 日	会合名称など	概 要	場 所
3月16日	基準認証部会		自動車部品会館
3月17日	製品環境部会		自動車部品会館
//	3D-CAD新技術調査WG		自動車部品会館
3月18日	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
//	電線部会		自動車部品会館
//	ランプ部会		自動車部品会館
//	国際イベント準備委員会		自動車部品会館
3月23日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
3月24日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
3月25日	製品環境部会		自動車部品会館
//	DSKKとの実機検証会		アルゴグラフィックス (箱崎)
3月28日	車輪技術部会		自動車部品会館
3月30日	製品環境部会		自動車部品会館
4月15日	物質調査システム分科会全体会幹事会		自動車部品会館
//	物質調査システム分科会全体会		自動車部品会館
4月21日	DE促進部会 セキュリティ講演会		自動車部品会館
4月21～22日	車輪拡大会議		IPシティホテル福岡
4月22日	DE促進部会 幹事会		自動車部品会館
4月22日	DE促進部会		自動車部品会館
4月26日	国際イベント準備委員会		自動車部品会館
4月27日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館

安全なクルマのより良い基準

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

2015年12月8日に米国運輸省道路安全局（NHTSA）が2019年モデル以降の新車に対する安全性評価基準の改定案を示しました。これは5つ星評価と呼ばれて前方、側方からの衝突に対して搭乗者がどれだけ守られるかという安全性を5段階に評価するもので、通常自動車販売店の店頭と広い駐車場に並ぶ新車の後部窓ガラスに貼られた装備、性能、価格、燃費などを表示したステッカーに記載されています。星の数が多いほど衝突したときに怪我をしたり死んだりする確率が低いというわけです。近年はNHTSAだけでなく、米国道路安全保険協会（IIHS）という米国の保険業界が設立した非営利団体も独自に衝突試験を実施してこちらは4段階の安全性評価を発表していますが、IIHSは2012年から25%オフセット前面衝突試験を加えさらに厳しい評価基準を示して、自動車メーカー各社の安全性向上の努力を促しています。

さてNHTSAが新しく示した安全性評価基準には斜め前方からの衝突試験を加えることやセンサー技術の向上された新しいダミーを使用すること、また搭乗者だけでなく衝突時の歩行者の安全性も評価基準に入れるなど現行よりさらに厳しいものになっているのですが、それだけでなく新基準には全く新しい考え方も含まれています。それは衝突したときの被害の少なさだけでなく、最近

回避システムも評価対象としたことです。すなわち前方衝突警告システムや自動緊急ブレーキ、レーン離脱警告システムなどの他、全方向視界システムや自動駐車システムなども含み、これまでのシートベルトやエアバッグ、そして車体構造の強さなど衝突したときにクルマがどれだけ搭乗者を守るかを比べるだけの評価から、クルマがどれだけ衝突を避ける能力を持っているかを比べる評価へ大きく一歩前進したというわけです。

残念ながらこれらの衝突回避システムのひとつひとつはようやく高級車から先に装備され始めた段階で価格もまだ全ての大衆車に適用されるレベルではありません。さらに消費者の側にもこれら幾つもの衝突回避システムの真の価値に対価を支払おうという意識がまだ高まっていません。衝突回避システムが多くの消費者に受け入れられるようになるためには時間がかかることでしょう。しかし、NHTSAの新しい5つ星評価基準でより安全なクルマは衝突しても大丈夫なクルマより衝突しないクルマだと示されるようになれば、多くのドライバーたちにそして子供を持つ多くの親たちに歓迎される日が近づくだろうと期待しています。今回のNHTSAの判断は自動車及び部品業界からの強い働きかけのおかげでもあるのですが、いつも規制、規制と締め付けたがるお役所もたまには良いことをしてくれるものですね。 〈完〉

中部支部 中小企業部会主催 「本田技研工業(株)鈴鹿製作所」視察報告

一般社団法人日本自動車部品工業会中部支部

中小企業部会 委員 庄山 由倫 (記)

(株式会社榎屋 営業開発部 副部長)

1. 日時

2016年1月29日 (金) 12:00～17:00

2. 視察先

本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所
(三重県鈴鹿市平田町1907)

3. 参加者

中部支部会員企業 16社33名

4. 視察内容

車体組立No 2ライン

5. 視察目的

高性能、高品質な軽自動車を主力として製造するホンダ鈴鹿製作所。高精度の最新鋭機械を随所に導入して、エンジンから完成車に至るまでの一貫した効率的な生産システムを視察することで今後の会員企業のものづくりに役立てる。

6. 会社概要

設立 1948年9月(鈴鹿製作所 1960年4月)

資本金 860億円 (2014年3月)

年商 13兆3000億円 (2015年3月)

従業員数 23,500人 (鈴鹿製作所 6,700人)

7. 事業内容

四輪事業、二輪事業、汎用事業の3つの事業があり、汎用事業は農機用エンジン、耕運機、低圧LPガス発電機、二足走行ロボット、航空機用エンジンなどを幅広く展開

8. 視察報告

＜鈴鹿製作所について＞

自動車メーカー本田技研工業(株)の軽自動車の主力組立工場の見学ということで、16社33名の参加者が集まった。バスで鈴鹿製作所に入門したが、さっそく説明員がバスに乗り込み工場内施設の概要説明を聞きながらバスで移動。同製作所では、

「アイデアの泉」というモニュメントのもとで、1年に約5万件もの大きささまざまなアイデアが従業員から生まれ、そのほとんどが採用されているとのことである。提案した従業員のモチベーションも上がり、一体感も生まれやすい環境だと感じた。

大会議場に入った後、まず中部支部副支部長の光精工(株)西村会長より、受け入れのお礼の挨拶。その後、鈴鹿製作所の概要をリーフレットとプロジェクターをもとに説明がある。

鈴鹿製作所は、ホンダの国内3番目の工場として1960年に設立。スーパーカブ、TN360、シビックなどを生産。二輪、四輪両方を製造する工場だったが、1991年に二輪は熊本製作所へ移管し、四輪専用工場となり、海外工場への技術支援を行なうマザー工場の役割も担っている。

面積は、89万㎡と甲子園球場22個分と広大で、従業員数は6,700名、現在は1,480台/日を生産中。

工場内には、鋳造から部品加工、組立てまでを一貫生産するエンジン、トランスミッションの製造工場があり、国内外へも出荷。組立てラインには、プレス⇒溶接(2000ヶ所以上)⇒塗装(電着⇒シーラー⇒中塗り⇒上塗り⇒クリヤー)⇒完成車組立⇒検査(内外装、足回り、走行)の一貫した工程となっており軽自動車を中心に製造している。

現在の生産車種：N-BOX、N-BOXスラッシュ、N-WGN、N-ONE、フィット、フィットHV、CR-Z

また、環境に配慮した技術、設計を実践するとともに工場ではゴミを分別して、紙は各取引先へ出荷してトイレットペーパーに再利用するなど、1999年には埋め立て処分ゼロ化を達成。溶剤塗料から水性塗料への切り替えによるVOC削減(1/2低減)、廃水浄化システムにより厳しい自主基準で管理して川へ放流、コ・ジェネレーションシステムの導入、太陽光発電システムの設置、樹木の育成など地球環境グリーン化にも積極的に取組ん

でいる。ホンダウツズの名義には、工場と近隣との間にはコンクリートの塀はつくらないとして、木々で塀を造る本田宗一郎氏の精神が生きているそうだ。

加えて、「地域に必要とされる工場でありたい」との強い思いから、イベントの開催、ボランティアなど地域社会とのさまざまな交流活動を実施していて、鈴鹿サーキット同様地域に貢献している。

<No2ラインの概要>

竣工1989年 2階建て ライン全長2400m

検査は約600項目 1時間を要する（テストコース約2km）

生産能力 1100台/日 自動車1台の製造にかかる所要時間は16時間

溶接ラインは480m 溶接ロボット370台稼働

塗装は別の建屋で水性塗料7色（No 1ラインと合わせて17色）を使用

<No2ライン見学>

組立てラインには、高さ（6段階）、速さの調整が出来る台車に載せて最適の位置でラインを流れ、各部品が組付けられている。作業者は、組付け作業仕様書を見て丁寧に作業を行ない、荷重13kg以上の作業はロボットを利用する。エンジンの組付けでは、エンジンの重量は軽自動車用で170kg、フィットで220kgあるため、作業者5人に加えて、作業者の負担を低減できる半自動ロボット「ラクラクハンド」も活躍していた。

ラインサイドの床は、AGVが部品を供給するため随時走行しているが、基本的には汚れない非常にきれいな工場という印象を受けた。

自動化もおそらく最先端レベルではないだろうか。ガラスの組付けにおいては、位置合わせのため部位によりLEDの色の使い分けがされていて、赤色は影の認識をしやすいと説明があった。そんな違いが人だけでなく、機械にもあることを知る。

ブレーキフルードの注入でもロボットが使用され、パイプとタンク内を真空状態にすることで注入作業がスムーズになり、走行時のブレーキフィーリングも良好になるという。

タイヤの取り付け工程では、前後4つのホイール付きのタイヤをカメラセンサー付きロボットが数秒でナットの締め付けまで完全自動化で行な



い、前後のシートの取り付けでもやはり完全自動化であり、ロボットがシートを空中に持ち上げて、車台の中に上手に入れ込み、位置を決めて設置、ナット締めまで行なうことを繰り返していた。

車両の水平面（天井、フード）には、酸性雨・鳥糞から塗膜を守るホンダオリジナルの保護ラップが施され、出荷後の販売店で外された後にお客様へ納車される。

9. 所感

今回は、会員企業においては日頃から関わりが深い自動車メーカーの完成車組立工場を視察することができ、参加者は熱心に説明を聞き入っていた。個人的にも軽自動車の生産ラインは初めて見学したが、自動化とともに全体的に4Sが徹底され、それが車の品質につながっていることをあらためて感じる事ができた。生産の効率化のための自動化だけでなく、作業者の負荷を考慮したライン設計。社員からの多数のアイデアを生かした治具、装置の導入などの改善からは、会社と社員との一体感が感じられた。

他の自動車メーカーも環境・地域に配慮、貢献されているが、その中でもホンダはトップランナーとして早期より対応し、埋め立て処分ゼロ化も早かったのではないだろうか。参加者の中からは「鈴鹿の住民になりたい!」という声も聞かれた。

最後に、この機会を準備していただきました中部支部および工場見学に対応いただきました本田技研工業(株)鈴鹿製作所様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト 12月12日

▶▶日刊自動車新聞の主要ニュースから部品業界の動きを追う

※()内の数字は掲載日付

行政・団体

12月.....

■中企庁、下請取引の実態を調査 問題事例などヒアリング (24日)

中小企業庁は親事業者が下請事業者に対して行う「下請取引」の実態調査に乗り出す。

■国土交通省、ナンバープレートの位置や角度 詳細に条件 (25日)

国土交通省は、ナンバープレートの取り付け角度やアクセサリに関する規定をまとめた。

■16年度予算案 国土交通省、自動車局関連が595億円 経産省、水素で279億円 (25日)

政府は2016年度予算案を決定した。

11月.....

■国土交通省、リコール体制強化 地方運輸局に7人の専門官 (5日)

国土交通省は、リコール(回収・無償修理)体制を強化する。

■政府、大型CNGトラック 購入額の一部補助 (9日)

政府は来年度、大型CNG(圧縮天然ガス)トラックの購入補助を実施する。

■賃金改善分3000円以上 総連 春闘方針決定 (15日)

自動車総連は「第83回中央委員会」を都内で開催し、2016年総合生活改善(春闘)の基本方針を正式決定した。

■経済産業省、IoTやAI利用にらみ法制度整備へ (15日)

経済産業省は、IoT(モノのインターネット化)や人工知能(AI)の利用拡大にらみ、競争政策や知的財産政策の見直しに着手する。

クローズアップ

デトロイトショー、
部品メーカーが存在感 (1月21日)



デンソーが提案するスマート・シティは、ITSから住宅、農業までカバーする

自動車メーカーの出展が中心の「北米国際自動車ショー(デトロイトショー)」だが、近年では部品メーカーも存在感を高めている。その背景には好調な北米市場や“デトロイト・スリー”と呼ばれる米国メーカーの復活などがあり、認知度を高めることで北米でのさらなるビジネス拡大につなげる狙いだ。

■国土交通省、保安基準を一部改定 側面衝突、国際調和に (22日)
国土交通省はこのほど、道路運送車両法に基づく保安基準を一部改正した。

■国土交通省、タカタ製エアバック追加リコールでベンツなど3社の日本法人に調査指示 (26日)

タカタ製エアバック問題に関連し、国土交通省は独フォルクスワーゲン(VW)とアウディ、ダイムラー傘下のメルセデス・ベンツについて、それぞれ日本法人に調査を指示した。

■国土交通省、車両安全対策の骨子案示す (27日)

国土交通省は、今後の車両安全対策に関する方向性を固めた。

2月.....

■経産省と総務省、IoT政策が本格稼働 (1日)

政府のIoT(モノのインターネット化)政策が本格始動した。

■規制改革会議、普通乗用車の定員増を検討 (2日)

政府の規制改革会議は、道路交通法で10人以下と定められている普通乗用車の定員を増やせないか検討する。

■国土交通省、交通事故対策 ヘッドランプに注目 (4日)

国土交通省が交通事故対策としてヘッドランプ(前照灯)に着目している。

■経産省、適正取引ガイドラインを改訂 (5日)

経済産業省は「自動車産業適正取引ガイドライン」を改訂した。

■経産省、営業秘密の漏えい防止ハンドブック (9日)

経済産業省は、企業で起こる秘密情報の漏洩を未然に防ぐため「秘密情報の保護ハンドブック」を策定した。

■経産省、中小の新事業に補助金 上限3000万円、生産性向上促す (9日)

経済産業省はこのほど、中小企業を対象とした「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」の公募を始めた。国内外の需要を捉えようとサービスや製造業における新事業の確立をねらう、中小企業に対し設備投資などへの支援を行う。

■特許庁、職務発明にガイドライン 利益付与の流れ明示 (13日)

特許庁は「職務発明制度」のガイドライン案をまとめた。従業員が行った職務範囲内での発明(職務発明)に対し、特許の利用者などと従業員の間の手続きなどを明確化する。

■2016自動車春闘 中小底上げを確実に メーカー各社労組、要求書を一齐提出 (18日)

自動車メーカー各社の労働組合は、経営側に一齐に要求書を提出し、2016年の自動車春闘がスタートした。

■自動車団体、経産省に2030年にCO2排出削減目標示す (18日)

日本自動車工業会など自動車関係団体はこのほど、温室効果ガスの2014年度削減実績と30年度の削減目標案を経済産業省の審議会に示した。

■国土交通省、タカタ製エアバック改修率 1月末で50%超す (19日)

国土交通省は、タカタ製エアバックのリコール(回収・無償修理)進捗状況を公表した。

■ペダル踏み間違い事故防止、先進機能普及急ピッチ (19日)

NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社

〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

日刊自ダイジェスト

ブレーキと間違えてアクセルを踏み込むことで起きる「ペダル踏み間違い事故」の防止機能が普及し始めた。

■トヨタ系部品メーカーの16年春闘 大手労組 格差拡大防止へ“我慢” (20日)

全トヨタ労働組合連合会に加盟する製造組合が春の取り組みの要求書を一斉提出し、トヨタ系部品メーカーの2016年春闘が始まった。

■政府、高度化した「準自動パイロット」20年に実用化前倒し 技術レベルを細分化 (24日)

政府は、自動運転技術の実用化時期を細分化したうえで一部を前倒しする。

国 内

12月.....

■3社が追加リコール タカタのインフレーター不具合 (26日)

タカタが米国運輸省道路交通安全局 (NHTSA) に助手席用エアバッグのインフレーターで不具合情報報告書を提出したのを受け、ホンダ、マツダ、富士重工が追加リコールを届け出た。

1月.....

■東洋ゴム、タイヤ事業の第三者機関再監査開始 (5日)

東洋ゴム工業は、一般産業用防振ゴム不正など一連の問題を受け、第三者機関による再監査を、タイヤ事業で先行して1月から開始する。

■トヨタ、車載通信機の搭載拡大 仕様、世界で共通化 (6日)

トヨタ自動車は、車載通信機 (DCM) による車両データの有効活用に向けた取り組みを加速する。

■ブリヂストン、米用品チェーン買収に追加の対応せず (6日)

ブリヂストンは12月30日、米国の大手自動車用品チェーン、ザ・ベップ・ボーイズ・モーター・ショー・アンド・ジャックの買収に関する追加提案を行わないと発表。

■トヨタ、AI技術研究家速へ新会社設立 (7日)

トヨタ自動車は、人工知能 (AI) 技術の研究を手がける新会社「トヨタ・リサーチ・インスティテュート (TRI)」を設立した。

■日産、リーフなどのテレマ向けに、マイクロソフト「アジュール」を採用 (7日)

日産自動車は電気自動車 (EV) 「リーフ」と上級ブランドであるインフィニティの欧州市場向けモデルに搭載しているテレマティクスシステムに、マイクロソフトのクラウドプラットフォーム「アジュール」を採用する。

■ローム、研究公募制度創設 (14日)

ロームは、半導体技術の活性化と発展を目的に研究公募制度を創設した。

■デンソー、個人情報漏えい (16日)

デンソーは、スマートフォン (高機能携帯電話) 用アプリの外部開発者の個人情報が漏えいしたと発表。

■北米国際自動車ショー 好調市場に高い期待 デトロイト・スリーが存在誇示 (18日)

毎年、真冬の恒例イベントとして開催される「北米国際自動車ショー (デトロイトショー)」。

■愛知製鋼、知多工場復旧は3月中めど (23日)

愛知製鋼は、爆発事故により操業を休止している知多工場 (愛知県東海市) 第2棒線圧延工場の復旧が3月中になる見通しを発表。

■フォード、日本撤退 (27日)

米フォード・モーターは、日本での事業から年内に撤退すると明らかにした。

■トヨタ、ダイハツを完全子会社に 小型車開発一本化 (28日)

トヨタ自動車とダイハツ工業の完全子会社化を検討していることが27日、分かった。

■生産マイスター検定、受験者数が11.8%増 (28日)

人材開発協会は「第8回生産マイスター検定」の受験者数が前年同期比11.8%増の2101人だったと発表した。

■欧州委から制裁金、日立 制裁金34億円5000万円で和解 (29日)

日立製作所と日立オートモティブシステムズは、EU競争法に違反していたとして、制裁金2686万ユーロ (約34億5千万円) を

支払うことなどで欧州委員会と和解した。

■新たな局面迎えたタカタのリコール問題、焦点は費用負担割合 (30日)

タカタのエアバッグリコール問題が新たな局面を迎えた。

2月.....

■国内部品メーカー、ダイハツのトヨタ完全子会社化で海外での取引に期待 (1日)

ダイハツ工業がトヨタ自動車の完全子会社になることで、国内の部品メーカーからはダイハツとの海外での取引に期待が高まっている。

■トヨタ、国内生産6日間停止 愛知製鋼の事故、ダイハツ/日野にも波及 (2日)

トヨタ自動車は、8日から13日までの6日間、国内の完成車組立ラインの稼働をすべて停止する。

■宇部興産、RCP事業撤退 廃材調達の難化で (2日)

宇部興産は、ポリプロピレン (PP) 樹脂のリサイクルコンパウンド (RCP) 事業から撤退する。

■部品各社、生産調整の検討始まる トヨタ稼働停止で波紋 (3日)

トヨタ自動車と国内の完成車工場が8日から6日間の稼働停止を決定したことで、同社に部品を供給するサプライヤー各社に波紋が広がってきた。

■三菱自、SUV・電動車強化 商品計画を発表、成長分野に開発集中 (4日)

三菱自動車は、SUVと電動車のラインアップを強化するなど、今後の商品計画を発表。

■トヨタ系部品大手、業績好調 4~12月期決算出揃う (4日)

トヨタ系サプライヤーの2015年4~12月期連結決算が3日までに揃った。

■愛知製鋼爆発事故、1週間で態勢立て直し、純益80億円超の影響 (4日)

愛知製鋼の鶴飼正男副社長は3日、決算発表の場で知多工場 (愛知県東海市) で発生した爆発事故について、これまでの経緯を説明した。

■日刊自動車新聞主催「自動車産業シンポ」自動車運転の「今」と「未来」 (6日)

日刊自動車新聞が主催した「第3回自動車産業シンポジウム」では、産業政策を所管する経済産業省、車両の安全確保や技術政策を担う国土交通省の担当者が自動運転技術の課題や展望などを語った。

■日産、横浜工場でのコージェネ発生蒸気 異業種に供給 (8日)

日産自動車、J-オイルミルズ、東京ガスの全額出資子会社東京ガスエンジニアリングソリューションズは、日産の横浜工場に設置するコージェネレーションシステムの廃熱を回収してつくった蒸気を、J-オイルミルズ横浜工場へ供給を開始したと発表した。

■ケーヒン、早期退職に404人 (8日)

ケーヒンは、特別早期退職の応募人数が404人になったと発表した。

■VW、電動車両シフトを加速 専用車台開発で日系部品各社も期待 (9日)

ディーゼルエンジン (DE) 車の排ガス不正ソフト問題で戦略転換を余儀なくされた独フォルクスワーゲン (VW) が、電動車両へのシフトを加速している。日本市場で既存の電気自動車 (EV) の投入を見送る一方、電動車両向けに初の専用車台「モジュラー・エレクトリック・ドライブキット (MEB)」を開発することを表明。

■日立AMS、自動運転 茨城で初の公道試験 車線変更や追い越し (10日)

日立オートモティブシステムズ (日立AMS) は、茨城県の有料道路で自動運転の公道試験を実施する。

■自動車メーカー各社の4~12月期連結決算 海外市場が牽引、5社が最高益 (12日)

国内自動車メーカー上場10社の2015年4~12月期連結決算が出そろった。

■東洋ゴム15年12月期決算、免震ゴム問題などで当期利益大幅減 (16日)

東洋ゴム工業は、2015年12月期の連結業績を発表した。売上高、

営業利益が3期連続で過去最高を更新した。

■UDトラック、いすゞから中型トラック調達 大型に経営資源集中 (17日)

いすゞ自動車とUDトラックスは、日本市場向け中型トラックの相手先ブランドによる生産 (OEM) 供給について基本合意した。

■ルネサス、車載向け動画像処理回路を開発 (17日)

ルネサスエレクトロニクスは、自動運転を実現する車載コンピューティングSoC (システムLSI) 向けの動画像処理回路を開発した。

■マツダと三菱自工、タカタ製エアバッグ関連 世界で244万台追加リコール (20日)

マツダと三菱自動車は、タカタ製エアバッグに関連し、世界で約244万台分の追加リコール (回収・無償修理) を届け出ることを明らかにした。

■国内の部品サプライヤー、自動運転技術の開発本格化 (20日)

国内の部品サプライヤーが自動運転技術の開発に注力している。

■市光、後方視界をモニター表示 電子ルームミラー実用化 (24日)

市光工業は、ルームミラーの代わりに後方視界をモニターに表示する電子ミラーを開発した。

■ホンダ2030年目標、3分の2を電動車に FCV・EVに集中 (25日)

ホンダの八郷隆弘社長は、東京都港区の本社で記者会見を開き、2030年をめどにグローバル販売台数の約3分の2をプラグインハイブリッド車 (PHV)、ハイブリッド車 (HV)、燃料電池車 (FCV)、電気自動車 (EV) で占める計画を明らかにした。

海外

12月.....

1月.....

■トヨタが衛星通信システム公開 地域を選ばず高速通信 (14日)

トヨタ自動車は「2016年北米国際自動車ショー (デトロイトショー)」で人工衛星を活用した次世代情報通信システムを初めて公開した。

■丸順、米の製造拠点譲渡 11月末で東亜工業に (25日)

丸順は、米製造子会社、インディアナ・マルジュン (インディアナ州ウインチェスター) の事業を11月末で停止するとともに、土地と建物、製造設備などの固定資産を東亜工業 (飯塚慎一社長、群馬県太田市) に同日付で譲渡する。

2月.....

■ボッシュ、アクティブアクセルペダルを開発 燃費向上や安全運転に効果 (12日)

独ロバート・ボッシュは、アクセルペダルを振動させることにより

エコドライブを促したり、危険を伝えたりする「アクティブアクセルペダル」を開発した。

■マルチ・スズキ、2工場が暴動影響で操業一時停止 (23日)

インド北部のハリヤナ州で発生している一部のカーストによるデモや暴動の影響で、スズキのインド子会社マルチ・スズキは州内2工場の操業を20日の午後から一時停止。

■BASFがアクゾノール社に工業用塗料事業を売却 (24日)

独BASF (本社=ルートウィヒスハーフェン) は、工業用塗料事業をオランダのアクゾノール社 (本社=アムステルダム) に売却することで基本合意に至った。

■三菱電機、スターター取引で韓国独禁法違反 (25日)

三菱電機は、自動車用スターターの2008年の一部入札で同社が韓国独占禁止法に違反していたとし、韓国公正取引委員会が是正措置と課徴金6億3000万ウォン (約6300万円) の支払いを同社に命じることを決定したと発表。

市場

12月.....

1月.....

■昨年の新車販売、アクア 首位返り咲き、ベスト10で軽6車種 (9日)

2015年の新車販売の車名別順位で、トヨタ「アクア」が2年ぶりに首位に返り咲いた。

■乗用車8社、4社が過去最高 (28日)

乗用車メーカー各社が公表した2015年の世界販売実績は、北米市場を中心とした好調な海外市場がけん引して堅調に推移した。

■15年カーAVC国内出荷額、3年連続マイナス (28日)

電子情報技術産業協会 (JEITA) がまとめた2015年の民生用電子機器の国内出荷額は前年比6.0%減の1兆2620億円と5年連続でマイナスとなった。

■15年の国内生産実績、国内生産2年ぶり減 (30日)

日本自動車工業会は2015年の国内生産実績を発表。

■15年の輸出実績、3年ぶりプラス (30日)

日本自動車工業会が発表した2015年の輸出実績は、前年比2.5%増の457万8078台となり3年ぶりに前年実績を上回った。

2月.....

■タイヤ消費量微増、輸出需要が後押し 16年予想 (5日)

日本ゴム工業会は、2016年の新ゴム消費量が15年 (集計見込み) 比で0.8%増の134万1000トンになるとの予測。

■15年のアルミホイール、生・販とも2年ぶり減 (10日)

日本アルミニウム協会は、2015年のアルミホイール生産・販売統計を公表。

記者の目

自動運転の実用化に向けて

自動車メーカーが2020年をめどに自動運転の実用化を目指している。交通事故を大幅に減らせる可能性があり、自動車メーカーや部品メーカーのほか、電機メーカー、IT企業なども参入し、技術開発を加速させている。

自動運転につながる先進運転支援システム (ADAS) はすでに段階的に実用化されており、交通事故の削減効果も出てきている。富士重工業による調査では、「アイサイト」を搭載した車両は非搭載車と比べ、1万台あたりの人身事故率が6割少ないという。自動車業界では大きなテーマの一つである「安全」の分野で、大きな進展があったといえるだろう。

ただ、自動運転の実用化にはまだ課題が残されている。「一番大きな問題は、人と機械の分担をどこでどう切り分けていくかである」 (上岡直見環境経済研究所代表)。ADASは運転を支援することが主な役割であり、最終的な責任はドライバーに帰属する。しかし、自動化レベルが上がるにつれ、人と機械の間で法的責任の判断が難しくなっている。

部品メーカーでは、自動運転化による事業への影響もあるとみられ、操作系部品メーカーからは「将来、主力製品が不要になる」との声も聞かれる。事業変化への対応や法整備の課題を踏まえると、自動運転実用化までの4年間は長いようで短く感じる。(H)



このダイジェストは12月24日～2月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2015. 10月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 11月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	689,929	100.9	6,520,260	93.0	669,404	108.3	7,189,664	94.3
普 通 車	432,274	108.7	3,928,003	99.8	416,696	115.7	4,344,699	101.1
小 型 四 輪 車	135,603	96.6	1,307,836	87.2	128,302	105.5	1,436,138	88.6
軽 四 輪 車	122,052	83.6	1,284,421	81.6	124,406	91.1	1,408,827	82.4
ト ラ ッ ク	111,598	93.1	1,103,246	97.1	108,110	94.2	1,211,356	96.9
バ ス	11,689	88.4	116,512	98.0	10,917	104.7	127,429	98.6
合 計	813,216	99.5	7,740,018	93.7	788,431	106.1	8,528,449	94.7

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2015. 10月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 11月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	315,190	96.0	3,593,977	89.9	314,053	92.4	3,908,030	90.1
普 通 車	100,556	98.2	1,141,405	92.4	101,620	101.1	1,243,025	93.0
小 型 四 輪 車	106,052	101.7	1,155,739	94.5	101,394	98.0	1,257,133	94.8
軽 四 輪 車	108,582	89.3	1,296,833	84.1	111,039	81.7	1,407,872	83.9
ト ラ ッ ク	63,875	95.0	682,935	96.9	73,815	97.7	756,750	96.9
バ ス	1,022	108.3	11,322	109.2	949	120.4	12,271	110.0
合 計	380,087	95.9	4,288,234	91.0	388,817	93.4	4,677,051	91.2

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2015. 10月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 11月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	365,410	106.3	3,237,258	101.3	368,097	117.4	3,605,355	102.7
普 通 車	341,992	105.4	3,071,200	102.9	345,284	115.5	3,416,484	104.0
小 型 四 輪 車	23,155	122.6	162,025	77.3	22,510	155.0	184,535	82.3
軽 四 輪 車	263	106.0	4,033	197.9	303	125.7	4,336	190.3
ト ラ ッ ク	38,911	86.7	396,494	98.6	34,956	81.2	431,450	96.9
バ ス	12,151	96.0	117,591	99.8	11,817	103.2	129,408	100.1
合 計	416,472	103.8	3,751,343	100.9	414,870	112.7	4,166,213	102.0

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2015. 10月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 11月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	543,765	97.8	5,227,879	97.7	534,239	105.9	5,762,118	98.4
	関連自動車部品 9品目	123,759	109.4	1,096,098	102.3	118,658	114.8	1,214,756	103.4
	内燃機関電装品 5品目	36,682	98.2	338,036	98.7	34,525	105.7	372,561	99.3
	二輪車部品 4品目	5,744	98.8	57,983	102.0	5,686	101.8	63,669	101.9
	合 計	709,950	99.7	6,719,996	98.5	693,108	107.2	7,413,104	99.3

指標・統計

			2015. 10月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同月比(%)	2015. 11月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同月比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,536	96.0	34,015	98.1	3,354	102.1	37,369	98.4
	2	ピストンリング	3,561	91.1	34,465	98.2	3,437	99.2	37,902	98.3
	3	シリンダーライナ	1,871	96.8	16,988	92.3	1,779	96.2	18,767	92.6
	4	吸気弁及び排気弁	3,631	101.5	32,888	94.3	3,485	104.4	36,373	95.2
	5	ガスケット	2,427	97.0	23,843	95.7	2,390	102.2	26,233	96.3
	6	燃料ポンプ	1,762	91.3	16,869	87.7	1,587	91.2	18,456	87.9
	7	空気清浄器	2,099	95.5	21,480	104.4	2,009	93.9	23,489	103.4
	8	油清浄器	1,805	93.9	18,126	95.8	1,775	96.6	19,901	95.9
	9	油ポンプ	1,926	78.6	21,673	90.1	2,015	91.1	23,688	90.2
	10	水ポンプ	1,916	72.2	22,937	97.3	1,939	78.6	24,876	95.5
	11	ラジエータ	15,397	66.2	149,031	83.1	15,082	81.6	164,113	83.0
	12	クラッチ装置	5,813	105.3	57,313	107.7	6,610	135.4	63,923	110.0
	13	自動変速装置	179,078	98.3	1,750,773	98.3	176,653	107.4	1,927,426	99.0
	14	ユニバーサルジョイント	3,121	85.0	31,809	87.8	3,103	92.7	34,912	88.2
	15	プロペラシャフト	5,010	103.8	45,196	96.0	4,804	108.4	50,000	97.1
	16	車輪	8,998	103.7	81,523	100.5	8,723	104.8	90,246	100.9
	17	かじ取りハンドル	3,263	79.7	34,116	83.0	3,194	83.3	37,310	83.0
	18	ショックアブソーバ	11,552	96.8	132,623	119.6	10,996	100.7	143,619	117.9
	19	ブレーキ倍力装置	2,323	75.9	32,280	108.2	2,397	105.2	34,677	108.0
	20	ブレーキシリンダ	4,148	61.9	36,004	54.7	3,913	108.1	39,917	57.5
	21	ブレーキパイプ	2,826	99.9	29,161	108.2	2,720	101.6	31,881	107.6
	22	ブレーキシュー	2,755	94.6	27,003	93.9	2,735	105.1	29,738	94.8
	23	燃料タンク	7,414	98.8	65,137	89.3	7,233	103.3	72,370	90.5
	24	排気管及び消音器	28,739	99.7	251,113	92.2	27,592	104.1	278,705	93.2
	25	窓わく	2,771	98.8	53,383	194.9	2,720	103.4	56,103	186.9
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	6,961	89.0	64,784	80.8	6,720	92.8	71,504	81.8
	27	窓ガラス開閉装置	4,474	90.5	46,156	98.1	4,234	93.7	50,390	97.7
	28	シート	77,213	114.2	635,802	95.8	76,701	118.5	712,503	97.8
	29	スイッチ類	14,229	97.1	194,197	141.1	13,420	98.8	207,617	137.3
	30	計器類	11,850	107.7	113,312	102.7	12,167	107.6	125,479	103.1
	31	窓ふき	7,103	92.2	74,877	101.4	7,028	105.2	81,905	101.7
	32	警音器	1,494	99.9	19,558	143.1	1,540	122.3	21,098	141.3
	33	暖房装置	7,743	90.9	74,365	86.4	6,995	85.4	81,360	86.3
	34	電子式ブレーキ制御装置	14,995	100.0	144,554	94.7	15,053	106.2	159,607	95.6
	35	シートベルト	7,297	105.2	82,090	106.8	7,910	117.2	90,000	107.7
	36	エアバッグモジュール	7,744	98.6	67,921	94.4	7,174	102.5	75,095	95.1
	37	気化器・燃料噴射装置	22,294	100.8	203,128	98.0	22,010	119.4	225,138	99.7
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	37,165	97.9	334,572	92.8	35,672	101.7	370,244	93.6
	39	軸受メタル	3,804	87.2	38,509	93.9	3,940	100.9	42,449	94.5
	40	ブッシュ	2,900	95.6	28,147	102.1	2,837	104.7	30,984	102.3
	41	オイルシール	8,757	95.1	86,158	96.7	8,593	102.6	94,751	97.2
		合　　計	543,765	97.8	5,227,879	97.7	534,239	105.9	5,762,118	98.4
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	9,958	102.1	86,291	102.6	9,744	106.9	96,035	102.7
	2	かさね板ばね	2,474	95.2	23,877	101.9	2,339	93.1	26,216	102.7
	3	つるまきばね	1,785	84.0	17,192	85.6	1,809	100.3	19,001	85.8
	4	線ばね	4,864	94.6	47,219	97.2	4,806	104.4	52,025	97.5
	5	カークーラー	26,990	106.0	249,105	99.2	26,117	111.4	275,222	98.4
	6	自動車用器具	38,197	118.9	324,337	108.3	37,868	126.2	362,205	107.0
	7	自動車用電球	833	83.4	9,126	93.9	812	92.0	9,938	95.1
	8	カーオーディオ	5,516	132.3	44,311	124.3	5,750	169.6	50,061	123.3
	9	カーナビゲーションシステム	33,142	108.0	294,640	98.6	29,413	106.4	324,053	97.5
		合　　計	123,759	109.4	1,096,098	102.3	118,658	114.8	1,214,756	101.5

			2015. 10月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 11月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1	ダイナモ	7,767	102.3	69,349	97.3	7,368	109.7	76,717	98.3
	2	スタータ	8,878	100.6	81,504	100.3	8,009	101.3	89,513	100.3
	3	ディストリビュータ	606	78.9	5,957	91.6	472	71.6	6,429	89.8
	4	イグニッションコイル	7,618	104.2	70,881	100.6	7,302	112.3	78,183	101.6
	5	プラグ	11,813	92.0	110,345	97.8	11,374	104.5	121,719	98.4
		合 計	36,682	98.2	338,036	98.7	34,525	105.7	372,561	99.3
二輪自動車 部品 (4品目)	1	気化器	765	87.6	7,961	102.9	783	92.8	8,744	101.9
	2	ショックアブソーバ	2,058	94.0	20,902	101.3	1,853	90.4	22,755	100.3
	3	計器類	1,062	88.0	10,838	93.1	964	86.1	11,802	92.5
	4	ブレーキ装置	1,859	120.5	18,282	108.5	2,086	132.4	20,368	110.6
		合 計	5,744	98.8	57,983	102.0	5,686	101.8	63,669	101.9

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

①平成21年1月より／「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。

②平成23年1月より／「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。

③平成26年1月より／品目の掲載順序を一部変更。

④平成26年1月より／「エアバッグモジュール」の定義を変更。

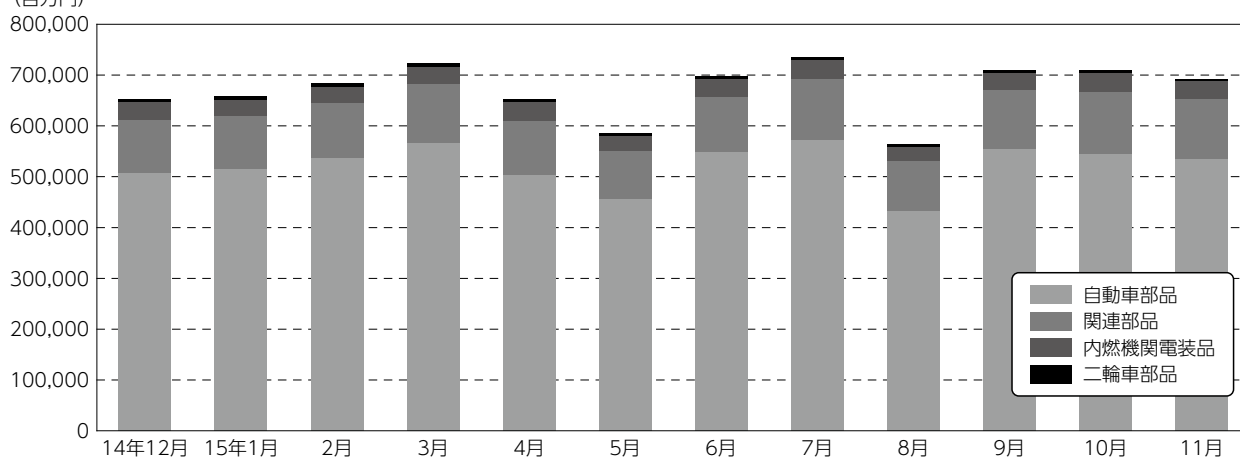
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

⑤平成26年1月より／「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

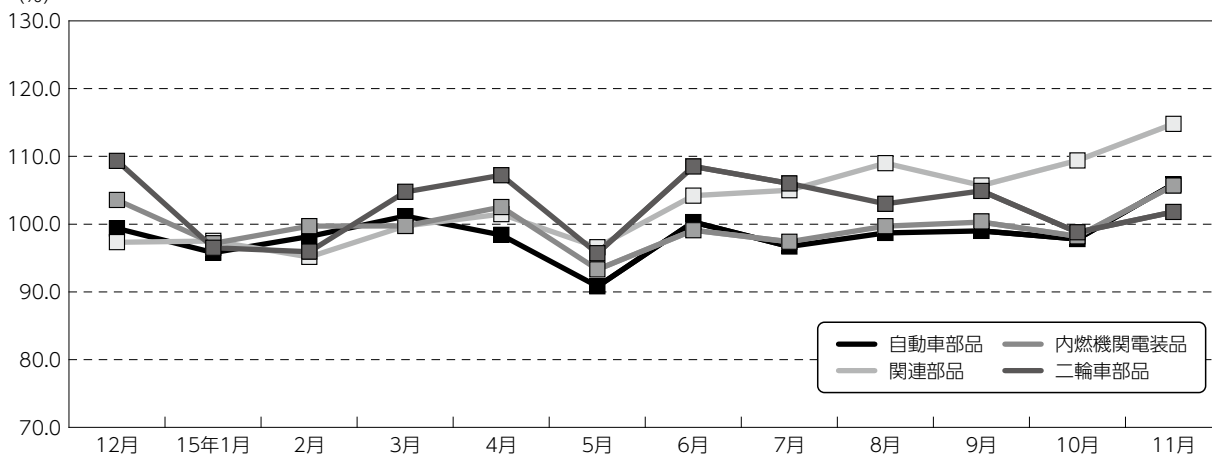
■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



Japan Auto Parts Industries Association

JAPIA NEWS

2016
3・4
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻712号)

目次

- 09 第15回技術展示商談会開催
- 10 中小企業革新技術展示コーナーを開設
- 11 **特集** 新たなる潮流 自動運転の実現に向けた課題
- 15 **連載** DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.8
世界同時株安の引き金となった中国の株価下落と人民元安
日本政策投資銀行
- 17 自動車産業革新技術セミナーを全国で開催
- 19 対UAE模倣品対策ミッション派遣報告
国際部 佐々木 光
- 21 **委員会部会だより**
税制部会
自動車業界の一員として要望実現に向けて活動
部会長 三矢 誠
- 23 工業会業務レポート・スケジュール
- 28 北米事務所だより Vol.117
- 29 支部活動レポート
中部支部視察報告 中小企業部会
- 31 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト
- 34 指標・統計

平成28年3月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

JAPIA会員企業様向け
最新のTS16949セミナーの情報・案内等は… www.lapj.co.jp まで

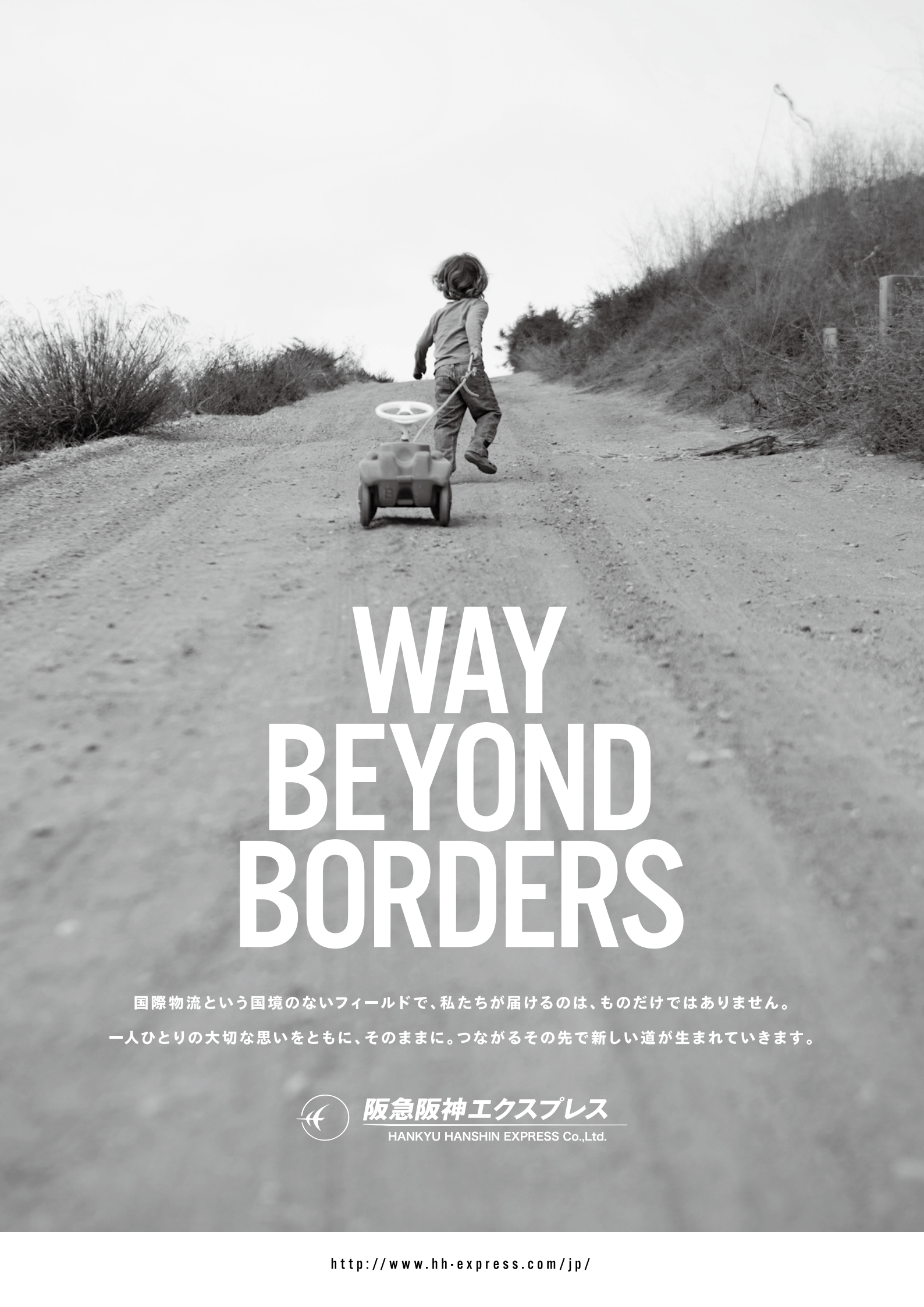
ISO教育コンサルティング

株式会社エルエーピー

LAP ISO
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp



WAY BEYOND BORDERS

国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。



阪急阪神エクスプレス

HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.



地球を舞台にしたスポーツは、
自分勝手なルールではゴールできない。

デンソーは、この惑星を走るランナーとして
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ
この惑星を技術で守りたい。

DENSO